

豊かな恵みを育むここ飯豊の里にも、少しばかりの春の息吹がようやく感じられる季節となりました。

あらためて、六十五名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお喜びとお祝いを申し上げます。

長引くコロナ禍により、規模を縮小しての式典となりましたが、在校生、教職員とともに、新たな環境に足を踏み出す卒業生の巣立ちを心から祝福したいと思いません。

さて、皆さんは二年前、新型コロナウイルス感染症の影響により、まさかの臨時休業に入り、その後二年間、大変に制約の多い学校生活を強いられました。

検温による体調管理、外せないマスク、ソーシャルディスタンス、活動ごとの手指消毒、換気等、どれだけ注意しても、各種大会が中止となったり行事が縮小されたりと、不自由な学校生活を余儀なくされました。

みんな同じなのだから仕方ない、そう自分に言い聞かせようとしても、思春期にある皆さんにとっては、大きな苦しみであったことと思います。

ですから、度重なる延期の末にやっと実現できた十一月の修学旅行は、本当に大切な宝物となりました。そして、あらためて、様々な体験をすることで人は大きく成長できるということを実感できました。

二日目、バスから降り立った岩手県大槌町、昔の街並みは消え、高く土盛りされた整地に未だ人は戻らず、目立つ空き地、閑散とした家並み。海の方角に目を移しても、巨大な防潮堤に阻まれ、失われた美しい浜辺の風景。海辺に住んでいながら、ほとんど見えない海、それが、現実であることを私たちは学びました。

さらに、三日目の三陸鉄道ゼミ列車や陸前高田市の東日本大震災津波伝承館、そして津波に耐えた奇跡の本松の見学により、いのちとまっすぐに向き合う機会とその大切さ、尊さを体感し、涙しました。

こうした二泊三日の行程に、最後まで全員が参加できたわけではありません。しかし、旅の先々で、一緒にいない仲間のことを大切に考え、言葉にしたり行動したりしている三年生の姿を見て、本当に嬉しく、著しい成長を実感できました。

帰校してすぐ、最終見学地うみの杜水族館までの全行程を、ホームページにも掲載しました。それだけ、私

自身、本当にうれしい待ち望んだ行事だったのです。みなさんと年はだいぶ離れていても、気持ちや考え方はほとんど変わりません。

今日一番伝えたいのは、このことです。中学三年生ともなると、考え方はほとんど大人と変わりません。皆さんには、既に私たちと同じような考え方が身についています。ですから成人年齢が引き下げられるのも、うなずけます。自分に自信を持ってください。

ただし、考えたからと言ってなかなか行動に移せないのが中学生。大人は、数多くの失敗や後悔を人生の糧として、考えたことをいかにすれば実現できるのか、そのノウハウを少なからず身につけています。

これからの長い人生、困難な出来事や予想外の展開に直面することが多々あることと思います。心から苦しいとき、辛いとき、すごく困った時は、自分一人で立ち向かえるものではありません。そんな時は、迷わずお家の方や先生、先輩、友だちに相談してください。そして、お世話になった分は、自分の得意な面で、少しずつ恩返ししていけばよいのです。

どうか、自分のことで頭がいっぱいになってしまいう

ような寂しい生き方はしないでください。自分の周りの人たちと助け合って、自分を広げていく生き方をしてください。今、世界で起きている事からも目をそらさず、しっかりと受け止められる人でありたいと思います。

名残は尽きませんが、時間となりました。ご列席いただきました保護者の皆様方、三年間にわたり皆様にとってかけがえのない大切なお子さまをお預かりし、職員一丸となって指導に当たってまいりました。時には不行き届きの面もあり、ご不満を感じられたことと思います。が、常に本校の教育に対して温かいご理解とご支援を賜りましたことに、教職員共々、心よりお礼申し上げます。

今後とも、お子様の最高の応援者として支え、励ましてくださるようお願いしまして、式辞といたします。

令和四年三月十六日

飯豊町立飯豊中学校

校長

小野

明彦